

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム 泰葉 A棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	令和3年 9月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年 11月 5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者の方々と寄り添う時間を増やす事で、安心や信頼関係が増し思いや体調その他、多くの言葉を引き出す事ができ、予測や早期発見に繋がっている。観察の目を養うことに力を入れる事で、ここ1,2年は救急搬送や転倒、怪我が減少している。利用者の嗜好に合わせた食事を提供する事ができ、満足していただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設当初から、家庭的な普通の生活ができる環境とケアの提供を理念に掲げている。職員は笑顔で優しく声掛け、利用者のできる事、得意な事を見出し支援することで、本人の生活に張り合いが生まれ安心した暮らしに繋がっている。毎月の身体拘束廃止委員会では、不適切なケアが無いかチェックし、語調の強さなどにも気配りしている。職員が利用者の小さな変化にも気付く観察力と着眼点の良さは、本人本位のケアプランにも活かされている。日頃から家族への連絡など密に行い、面会制限はガラス越しから玄関にて距離を置いての面会となり、利用者や家族の満面の笑顔が覗える。また、食事は旬の食材や菜園で育てた野菜を用いて社長自ら腕を振るい、嗜好に合わせた献立は利用者や職員の楽しみである。このようなことから利用者が安心して普段の生活している事業所であることがわかる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、理念を共有しており家族的な明るい雰囲気意識して利用者と一緒に食事の下準備や洗濯物たたみ等、協力し合いながら日々過ごしている	理念は訪問者も見ることができるよう玄関に掲示すると共に、管理者と職員は理念に込められた思いを理解し共有している。温かく家庭的な普通の暮らしが自然にできるよう、利用者のできることや得意なことを見出し、見守りながら支援し本人の生活に張り合いができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、思うような活動が出来ていない	町内会員として回覧板を回し、婦人消防隊との協力関係がある。公民館の100才体操への参加や祭りの見学、幼稚園児との交流など、新型コロナ禍で現在は停止中であるが、収束後は交流を再開する予定である。近所からのつわ、筍など差し入れや庭の花見などでも交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関わりのある地域の方から、電話で相談を受けたり、認知症の方への対応や支援方法などを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やサービスケアの対応状況、新型コロナ感染症が蔓延している中での生活状況等、書面会議にて報告を行い、ご意見、ご指導をいただき、話し合いを行いながらサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議は、今年度は書面会議である。事業所の状況やケア会議の内容、ヒヤリハットなどの報告や課題など規定の参加者に配付し、電話で意見や質問を聞いている。詳細な議事録で確認できるが、報告は市に留まっており、参加メンバーへの議事録の送付はこれからである。	事業所の取組やケア会議の内容、メンバーの意見など充実している議事録は情報共有のため、参加者に届けることが望まれる。更に家族等に、事業所のサービス向上のための運営推進会議を知ってもらう工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告や問題発生時(新型コロナ感染時)においては長寿社会課、保健所、病院と連携を密に行い協力を得ている	行政や包括支援センターと密に連絡を取り、報告、情報交換や問い合わせを行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。行政からの案内がある研修など参加しているが、現在は新型コロナ禍で研修会の案内は見送られており、収束後に再開の予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、禁止の対象となる行為を正しく理解している。当ホームでは、拘束を行わないと定めており毎月のケア会議で意識を高める為、振り返りと確認の話し合いを行っている	身体拘束しないことが基本であり、毎月のケア会議で身体拘束廃止委員会が、不適切なケアが無いかチェックし検討している。声掛けの語調の強さなどにも気を付け、穏やかな対応に努めている。帰宅願望がある利用者には、散歩や得意な趣味などで気分転換できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止について毎月学び会議において確認を行っている。又、管理者は定期的に問題がないか職員、入居者の方々に話を聞き虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前、研修へ参加し会議で話し合いを行っている。随時、利用者の状況に応じて必要性がないか検討しているが現在、制度を必要とされる該当者がおられない為、活用はしていない。今後、必要性があれば活用し支援を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	詳しく説明を行い理解されているか確認をしながら進めている。契約の締結後も不安な点や相談があれば、いつでも連絡していただくよう、お声かけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には普通の会話の中で、ご家族の方々には来所時や電話で意見や要望を伺い管理者、職員が共有し地域の方や運営推進会議等で伝え運営に活かしている	新型コロナ禍で、面会が困難な状況の期間は、家族と電話での連絡を密にし意見や要望を聞き取っている。年4回ホーム便りの他、個別に手紙を送り近況を伝えている。ようやく周辺状況が改善していると判断し、家族の要望を基に玄関での距離を取った面会を再開しており、家族が面会に訪れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の仕事の中で、意見や提案を受けられる機会があり対応できる事は早急に対応している。大がかりになる内容は、なかなか先に進まない事もある	両ユニット合同で毎月ケア会議を行っており、職員は日々のケア、仕事について意見を出している。職員の意見等、管理者から代表に伝えている。職員の要望を反映し、離床時のセンサーを設置し支援に役立っている。ただし、職員の休憩が利用者と同じリビングであり、検討の余地がある。	職員の休憩は、支援の質を高めることに繋がると考えられる。利用者から離れて休憩できるよう検討、工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為の一部補助金制度や資格取得後、手当支給を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナ感染防止の為、研修は受けていない。ホーム内でのケア会議を利用し、ケアの方法等を個別に指導、実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止の為、交流や訪問は控えているが、定期的に電話やネットを利用し情報交換や意見交換を行い、サービスの向上に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より利用者に困りごと、不安なこと、ご要望などを傾聴している。訴えができない方に関しては、ご家族の思いや要望を伺い情報等も参考にしながら、安心して過ごしていただけるよう、信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前より、要望や困り事等を伺いサービスに繋げている。特に初期においては利用者の様子などを細かく伝えている。又、何か解らない事や相談があれば、いつでも気軽に電話をいただくよう、お伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人、家族へ要望や現在の困り事等を伺い、利用者の状態を把握し必要な支援や、必要な他のサービスがないか検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、利用者の声に耳を傾け協力し合いながら出来る事はご自身で活動していただき、職員は見守り、サポート、又は一緒に行ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症防止の為、面会は出来ていないが、生活の様子を報告して家族の意見を伺ったり、生活状況に変化があった場合等、今後の支援方法を家族と話し合いながら、共に本人を支えていくよう連絡、連携を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により馴染みの人や店との関りは出来ていないが、電話での会話やドライブで見慣れた場所へ同行し、満足していただけるよう支援している	新型コロナ禍の影響で、家族等の馴染みの人と会う機会が減少しているものの、事業所では感染予防を徹底して数人ずつの花見を行ったり、個別に自宅近くまでドライブするなど工夫していることが確認できる。現在は落ち着いているため、これまで停止していたドライブなど出掛ける予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の良し悪し等の関係性を把握し、トラブルを回避したり、自分から会話が出来ない方には職員が介入し、コミュニケーション支援を行い、孤立しないよう毎日楽しく生活ができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も時折、電話連絡をして、その後の経過を伺ったり、ご家族の話を傾聴し相談に応じたりしてフォローや支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを引き出し、どんな風に暮らしたいか、今後の意向、希望、要望などを会話の中で伺っている。意思表示が困難な方には現在、何が必要かを汲み取り支援に繋げている	利用者一人ひとりに朝から一日の過ごし方について希望を尋ねている。言葉によるコミュニケーションが困難な場合は、表情などで判断し支援している。新しく入居した利用者については、発した言葉を記録するルールがある。会話や生活歴を支援計画に反映し、かぎ針での毛糸編みを支援している例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の収集やサービス利用の経過などを把握し、情報が不足している場合はその都度ご家族の方にお尋ねしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、一人一人把握できている。毎日のバイタルチェックや顔色、表情の変化、個人の持っておられる力等、毎日情報を共有し職員全員が把握している。又、何か問題があれば、夜勤者、日勤者への申し送りで細かに伝達し繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況が変化していく過程で、本人の望む暮らし、生活意欲の向上に向けての課題、ケアのあり方について本人、家族、職員と話し合い主治医の意見やアドバイス等を反映させ現状に即した介護計画を作成している	介護計画は長期、6～12ヶ月、短期1～3ヶ月の目標設定がある。3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族の訪問時や電話で相談し、モニタリング表に基づき見直しを行っている。利用者の入退院時や状況に合わせ、個性のある計画を作成し個別支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果等、個別記録に記入し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしているが、ケアの方法、実践において記録内容が一部不足している部分が見られる為、記録の書き方、アセスメント内容、視点等、引き続き話し合い、計画に活かしたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況が急激に変化したり、日によって変動も見られる為、その時の状況に合わせ計画内容に記載していないサービスを柔軟に支援している。ご家族に対しては、事情があって受診対応ができない場合は、職員が他科受診の同行、対応サービスを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方から野菜の提供や、利用者が喜ばれ、手の運動に良いからと、つわを持参していただき、利用者が皮むきをして食事に提供するなど、協力を得ながら楽しんでいただけるよう支援している。ボランティアは現在、中止している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所決定時、本人、ご家族より希望のかかりつけ医を伺い出来るだけ、ご希望に添えるようにしている。又、主治医との連絡、連携を密に行い支援している	家族の意向で、3ヶ所のかかりつけ医を継続している。内科以外の専門医の受診は、家族対応である。コロナ以前は、歯科医の往診もあったが現在は中止している。緊急時にはかかりつけ医から紹介状をもらい適切な医療受診ができています。更に、受診ノートで家族、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の一般状態の変化や気づき等、その都度かかりつけ医の看護師へ相談し、指導やアドバイスをいただいている。受診が必要と判断された場合には受診対応し、その後の状態報告を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族に寄り添い安心できる言葉かけをしている。日頃より関わりの医療関係者との情報交換や連絡、連携をして関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを行っていない旨の説明をしている。重度化した場合の対応について、医療行為が必要になった場合は、ホームでの対応は出来ないが、状況によっては家族と話し合いを行い、要望があれば可能な限り支援していく方向で取り組んでいる	看取り介護に関する同意書があり、段階が来て医療行為が必要になった場合は、医療機関や症状に合わせた他施設の紹介を行っている。家族の強い要望があれば、医師や看護師、職員が相談し、医療行為を伴わないギリギリの段階まで支援するよう考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は、定期的に行っていないが、日頃のケアの中で必要な応急手当、事故発生時の対応など、その時々でスムーズにできるよう指導、実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害時の計画書を作成し水害(年1回)、火災(年2回)、毎月1回の自主避難訓練を行っている。現在コロナ感染防止の為、消防隊、婦人消防隊の参加は中止している。全職員が消火、避難誘導を身につけている。火災防止に自主検査表のチェックや電気配線等、劣化の確認を行っている	日中、夜間想定で年2回、火災避難訓練を実施している。その他水害訓練では、事業所前の河川水位の状況、気象情報確認など担当者を決め、全職員へ連絡を回し時間を計っている。地域の婦人消防隊と緊急時連絡網の連携や、緊急持ち出し品の整備、飲料水その他備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、日頃より全職員が言葉かけには注意し対応している。基本的な事ではあるが、利用者の情報で本人に不利益となるような事は、他者の前で言葉にしないなど尊厳に配慮している	利用者は苗字にさん付けで呼び掛けている。失敗した際は、職員間で連携してさりげなく誘導し清掃しており、他の利用者に気づかれないよう支援している。おむつ交換時はバスタオルを掛け羞恥心に配慮している。ただし、トイレにパッド類をそのまま置いていところがある。	トイレのパッド類の保管方法の工夫が望まれる。また、個人ファイルの保管についても、プライバシー保護の観点から検討見直しに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の思いや希望など言葉を引き出しながら傾聴している。自己決定が困難な方には短く解りやすい言葉かけや、身振り手振りでアプローチし、表情や、うなづきで職員が思いを汲み取り対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操後、利用者の方へ今日は何をしたいか希望を伺い、自己決定を尊重し支援を行っている。年齢や体力の差がある為、特に高齢の方に対しては、無理をし過ぎないようにバイタルチェックや動きの確認を行いながら対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい髪型やヘアバンド装着のおしゃれ、清潔な服装、定期的な爪切りなど毎日身だしなみに気を配り、本人に寄り添い声を聞きながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、時々食べたい物を伺いメニューに活かしている。野菜の皮むき、食器やお盆拭きなど職員と一緒に準備や片付けをしている	職員は利用者との日々の会話から食べたいものを聞き取っており、献立は当日の料理担当職員が調理している。利用者はつわ剥きなどを手伝っている。クリスマスには仕出しを取り、正月はおせち料理を提供するなど利用者の食欲は旺盛である。時には道の駅で焼き芋を買い、おやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重が大幅に増えている方に対しては、体重コントロールを行う為、食事量やおやつの内容を見直す又、一度に摂取出来ない方には、摂取回数を増やす等、工夫している。水分量をチェックし好みの飲料水を提供、夜間は枕元にお茶(ペットボトル)を置き、いつでも飲めるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来る方は行っていただき、磨き残しがないか最後の確認を行っている。介助が必要な方は義歯洗浄、舌苔ブラッシングを行い口腔内に残渣物がないか確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方でも、日中は出来るだけトイレで排泄を促している。排泄後の後始末、ズボンの上げ下げ等、個人の力を発揮できるように支援している	職員は、排泄の自立支援の重要性を認識しており、日中は可能な限りトイレでの座位排泄を支援している。排泄チェック表に記録し、定期的に声掛けし誘導することで失敗しないよう配慮している。現在、一つのユニットでは使用可能なトイレが一ヶ所となっているが、早期に増設の予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食事、牛乳、乳酸菌飲料等の提供、又運動不足にならないよう、個々の能力に応じて活動を支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めているが、その日に入浴できなかった場合や、希望があればいつでも入浴できるよう支援している	週に2回、各ユニットで曜日が重ならないように工夫して入浴を支援している。入浴拒否や体調不良で入浴できない場合も翌日に別ユニットで入浴可能であり、職員はコミュニケーションを図って支援している。入浴は利用者と職員が一对一であり、昔の話に花が咲くことも多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や表情に気を配り、本人のペースに合わせて、いつでも休息できるよう支援している。特に寝つきが悪い方には、温かい飲み物を提供したり、思いを傾聴し安心できるような言葉かけを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法、用量は理解している。服薬前に職員が必ず名前、日にち等を声に出し確認した上で与薬を行い、飲み込みの確認を行っている。又、常に症状の変化を観察し、確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年の調理経験者には調理の補助、趣味で家庭菜園をされていた方には、花や野菜植え、事務職経験者は計算問題集などを行っていただき、珈琲や饅頭その他、嗜好品の提供、野球観戦、歌番組のビデオ視聴等、楽しみ事の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日にしたい活動や希望などを伺い体調や天気を考慮しながら、ホーム周辺の散歩やドライブ、個別での花見、など支援している。コロナ発生以降、ホーム内活動が主になっている	新型コロナ禍で、これまでのような外出はできないものの、敷地内の野菜栽培ではトマトやキュウリの水やり、収穫を利用者も一緒に楽しんでいる。また、近くの公園や遊歩道を散歩しており、車椅子の利用者も一緒に外気に触れる時間を多く取れるよう配慮している様子が覗える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は少額のお金を所持しているが、財布の置き場所や所持している事を忘れられている。お金の話をすると不安な言動が見られたり、不眠に繋がることが多いので、希望があれば家族や職員が買い物支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話ができない為、要望がある場合は職員が電話をかけて支援したり、職員が連絡や状態報告で家族へ電話をかける際、本人に取り次いだりしている。又、月に一回、家族が来所される際に、お手紙を渡したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレが一ヶ所のみで、使用が重なった時、利用者に待っていただく状況が出ている為、増設予定である。四季に合わせて壁の飾り物を作ったり季節の花を飾ったりしていただき心地よい空間作りを行っている	陽当りの良いリビングは、カーテンで光を調節し、換気や温度管理、掃除も職員が行い清潔である。趣味の編み物や数字パズル、切り絵など利用者が好きなことを楽しみ職員と談笑する様子が覗える。壁の飾り付けで季節を感じ、調理の音と匂いが五感を刺激する居心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを3カ所に設置し、一人でゆっくり休憩されたり、気の合った利用者同士が、ゆっくりと語り合えるような居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら自宅で飾っていた家族の写真、ぬいぐるみ、造花、余暇活動で作成された物などを居室の棚や壁に飾っている。又、使い慣れた寝具類の使用など安心して過ごせるよう工夫している	居室は、フローリングに畳の部分もあり、ベッドや布団利用も症状に合わせ、柔軟である。テレビや椅子、文学書、音読本などの持参があり、テーブルには家族の写真や様々な化粧品が置いてある。コーヒーを楽しみ、ゆっくり寛げる自由な居室で、掃除やベッドメイクをする利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室などスムーズに移動できるよう解りやすい表示をしたり、歩行の妨げにならないよう、居室の出入口の確認や動線の安全確保に努めている		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社泰葉		
事業所名	グループホーム泰葉 B棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	令和3年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年11月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の楽しみのひとつでもある食事を重要視し、旬の食材を利用し美味しく安心して召し上がって頂けるよう日々創意工夫をしながら提供しております。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、理念を共有しており家族的な明るい雰囲気を意識して利用者様と一緒に食事の下準備や洗濯物たたみ等、協力し合いながら日々過ごしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症防止の為、思うような活動が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前から関りのある地域の方には、電話で相談を受けたり、認知症の方への対応や支援方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やサービスケアの対応状況、新型コロナウイルス感染症が蔓延している仲での生活状況等、書面会議にて報告を行い、ご意見、ご指導を頂き話し合いを行いながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告や問題発生時(新型コロナウイルス感染時)においては長寿社会課、保健所、病院と連携を密に行い協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員禁止の対象となる行為を正しく理解している。当ホームでは、拘束を行わないと定めており毎月のケア会議で意識を高める為、振り返りと確認の話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度行っているホーム内研修時に、身体拘束・虐待について話し合い、職員全員が熟知し防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前、研修に参加し会議で話し合いを行っている。随時、利用者の状況に応じて必要性がないか検討しているが現在、制度を必要とされる該当者がおられない為、活用はしていない。今後、必要性があれば支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	詳しく説明を行い理解されているか確認をしながら進めている。契約の締結後も不安な点や相談があれば、いつでも連絡して頂くよう、お声がけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には普段の会話の中で、ご家族の方々には来所持や電話で意見や要望を伺い管理者、職員が共有し地域の方や運営推進会議等で伝え運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の仕事の中で、意見や提案を受ける機会があり対応できる事は早急に対応している。大がかりになる内容は、なかなか先に進まない事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為の一部補助金制度や資格取得後、手当支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、研修は受けていない。ホーム内でのケア会議を利用し、ケアの方法等を個別に指導、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止の為、交流や訪問は控えているが、定期的に電話やネットを利用し情報交換や意見交換を行い、サービス向上に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より利用者にお困りごと、不安なこと、ご要望などを傾聴している。訴えが出来ない方に関しては、ご家族の思いや要望を伺い情報等も参考にしながら、安心して過ごしていただけるよう、信頼づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前より、要望や困り事等を伺いサービスに繋げている。特に初期においては利用者の様子などを細かく伝えている。また、何か分からない事や相談があれば、いつでも気軽に電話していただくようお願いしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人、家族へ要望や現在の困りごと等を伺い利用者の状態を把握し、必要な支援や必要な他のサービスがないか検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、利用者の声に耳を傾け協力し合いながら出来ることはご自身で活動していただき、職員は見守り、サポート、または一緒に行ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症防止の為、面会は出来ていないが、生活の様子を報告して家族の意見を伺ったり、生活状況に変化があった場合等、今後の支援方法を家族と話し合いながら、共に本人を支えていくよう連絡、連携を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、交流することは控えているが、これまでの記憶を心に留めておけるよう会話の中で関係継続に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有し状況に応じて席替えを行う等対応している。孤立することがないように皆さんと交流できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、移動先を把握し本人及び家族への支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の日課を把握し、本人の意向を優先。困難な場合は会話の中で探り、本人本位のケアの提供に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を共有し、入居に至った経緯を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し、機能低下を防ぎ残された能力を発揮できるよう現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者より話を聞き、職員間で意見を出し合い介護計画に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等で職員間で共有し、話し合いをすることで介護計画のサービスに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の変化に応じて臨機応変に対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部との交流は行ってないが終息後は地域との交流を視野に入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞き取り納得して頂いた上でかかりつけ医を選択し心身状態に応じて適切に対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がある場合はかかりつけ医に上申し指示を仰ぎ、適切な治療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携とり情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが家族の意向を尊重し、主治医と相談の上スムーズに対応できるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて訓練は必要であるが、訓練は特に実行していない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、自主避難訓練を実施している。避難時、訓練時には消防署・地域住民・家族との協力体制を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ時の表情や口調、声のトーンに気を付け失礼のないよう対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えることが困難な方には、思いを導きその方の立場に立って支援できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペース合わせた支援を行うよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や定期的な訪問カットでその人にあったヘアスタイルや身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、下膳等手伝いを職員と共にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、栄養バランス、水分摂取量を確認し不足の際は栄養補助食を用いて栄養が確保できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の残渣物なく清潔に保ち、誤嚥なく過ごせるよう観察し、食後の口腔ケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄のタイミングを優先しているが、トイレの間隔が長く空いている場合は声掛けにて誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力での排泄が困難な方には主治医に相談し、排便コントロールを行い、食物繊維の多い食材を使用した献立の提供水分管理、日中の軽運動マッサージ等を行い自然排便を促すよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴剤を用いて個別にゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態を観察し休息できるようしている。普段と違う変化があれば、夜勤者へ繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態に変化がみられた際は主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為、ホーム内での調理手伝い・軽作業・掃除やレクリエーション等出来ることを、体調を考慮しながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外部との接触を避け庭先で花や野菜を育てたり、職員の自宅庭への花見などドライブを兼ねた外出を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している方はいないが物品購入希望の際は、家族へ依頼したり、職員が代理で購入する等している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、家族へ電話を入れ会話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場の日差しの強い時はすだれを用い光を遮る等し、リビングには利用者・職員で四季に合わせた壁紙などの装飾物を制作し季節を感じ取れるよう工夫に取り組んでいる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、時折席替えをして居心地よく過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やTV、書籍等を持ち込むことができ本人が違和感なく快適に過ごせる環境作りをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活動線を確保し転倒のリスクがないよう努めている。残存機能その方の能力に応じ、安心したゆっくりとした時間を過ごして頂けるよう工夫している		